



新見市男女共同参画情報紙

りぼん

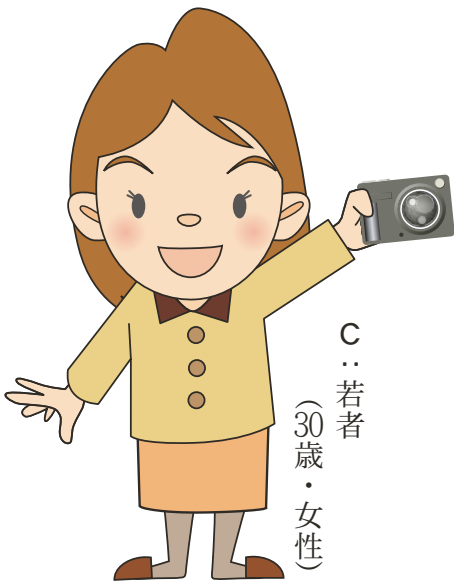
vol.17
2014.2



じえじえじえ!

こんなところで見つけた!

今回のりぼんでは、「身の回りで見つけた男女共同参画」に関する写真を、会話型式で紹介していきます。



C..若者
(30歳・女性)



B..団塊の世代
(65歳・男性)



A..昭和初期生まれ
(80歳・男性)

C..今回は私が、「男女共同参画に関する写真」を撮ってきましたよ。

A..ほう、どげえな写真じゃろうか？

B..なんやら想像がつきにくいのう。

C..そこまで難しく考えなくても大丈夫ですよ。男女共同参画というと堅苦しく感じるかもしれませんが、皆さんが普段目にするものや、気付かないうちに見過ぎてしまっているものだって意外と多いと思いますよ。

B..そげえなもんなんじゃろうか。

C..今回の写真を通じて、当たり前の風景が少し違うように見えるかもしれませんね。それではどんな写真があるか一緒に見て行きましょう。



ではなく、自分の興味がある仕事を選択することが大切なんじゃないですかね。

就職・仕事の場面でどう変わった？

昔は、保母、看護婦など、女性を連想させる職業が多くありました。

近年では、「保母」は「保育士」に、「看護婦」は「看護師」という表記になっていきます。飛行機の乗務員である「スチュワーデス」は女性の客室乗務員を指す言葉で、現在は廃止され、「キャビンアテンダント」や、「フライトアテンダント」と呼ばれるようになりました。

また、女性の警察官、消防士なども多くみられるようになり、男だから、女だからといった理由で職業が制限されることが昔より少なくなってきたのではないのでしょうか。



A…こりゃあ工事現場の写真みてえじゃのう。

B…おお、この作業をしようるのは女の人じゃがな。

A…ほんまじゃなあ。工事現場といやあ、昔から男の仕事のイメージが強えがなあ。

C…確かにそういったイメージもありますね。でも、工事現場だけでなく、バスやタクシーの運転手、エンジニアだって必ずしも男性の仕事というわけではありません。

A…そういやあ、この前バスに乗りようたら、女の運転手と男の添乗員がおったのう。

C…男だから、女だからということ



C…そうですね。相手を思いやる気持ちを考えるきっかけにもなりますし、見ているだけでは気がつかない、細かい部分に気がつくことのできるとてもいい経験だと思います。



出産、育児に夫はどう関わる？

昔は、妻が妊娠しても、夫は病院への送り迎えだけで外で待っていることも多く、出産に立ち会うことはほとんどありませんでした。

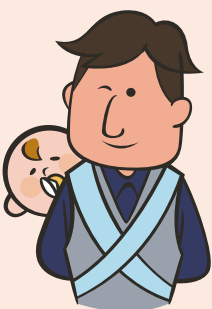
A…おお、こりゃあすげえなあ。旦那さんの腹がえれえ膨れとるがな。

C…これは、妊婦体験ですね。父親が赤ちゃんのいるお腹を体験することができるとは、すげえなあ。旦那さんの腹がえれえ膨れとるがな。

B…最近、そげえなあもんがあるんじゃないのう。

C…男性が、赤ちゃんのいるお腹を体験することで、日々の洗濯や掃除から、階段の上り降りに至るまで、妊婦がどれほど大変なのかを知ることができるとはすげえなあ。

A…確かに、大変じゃろうとは思っても、自分の体で体験することやこうねえけえなあ。





A・・・こりやあ「男性化粧品」とか
いとるみてえじゃけど、男が化粧
やこうするんか。
C・・・整髪料や化粧水、洗顔フォー
ムなんかもあります。
B・・・そーいやあ薬局
で見たことあるかも
しれん。せえにして
も、これが全部男向
けなんか。そーいうもんは女がす
ることじゃねえんかなあ。
C・・・そんなことはありませんよ。
最近では、男性もスキンケアする
時代になってるんですよ。特に
若い世代の人は、お風呂上りに化
粧水を使うのが日課になってる人
だっているみたいですよ。



A・・・はあー。わしや
あそげえなこたあ
考えたこともねか
ったなあ。

男性の美容に対する意識

昔は、男性は床屋、女性は美容
院に行くもの、スキンケアは女性
がするもの、といった考え方が多
かったのではないのでしょうか。

最近では、男性の美容意識が向上
しており、薬局などの陳列棚には、
男性を対象とした化粧水や洗顔フ
ォームなどの化粧品が並んでいる
光景も珍しくありません。男性が
美容院に通ったり、日差しの強い
日には日焼け止めを塗ることも。
さらに近年では、男性向けのエス
テなども存在し、美容は女性だけ
のものではなくなっています。



B・・・こりやあゴミ
出しじゃがな。わし
も毎回やつとるで。
A・・・そりやえれえ

のう。わしやあ任せつきりじゃ。
C・・・普段家事をあまりしなくても、
通勤前なんかにはゴミ出しをする男
性は多いんじゃないですかね。

A・・・そーいやあ、近所でも男がゴ
ミ出しをしようるのをよう見かけ
るかもしれん。わしもやつてみゆ
うかのう。
C・・・それはいいことですね。

家庭内の夫婦の役割は

昔は、夫は仕事、妻は家庭、と
いったように、家事をする男性も
今ほどいかなかったのではないでし
ょうか。

今では、通勤前に夫がゴミ出し
をすることもよく見る光景になり
ました。趣味が料理という男性も
増えてきています。

内閣府男女共同参画局の「男女



A・・・こりやあなん
なら。
B・・・トイレじゃろ

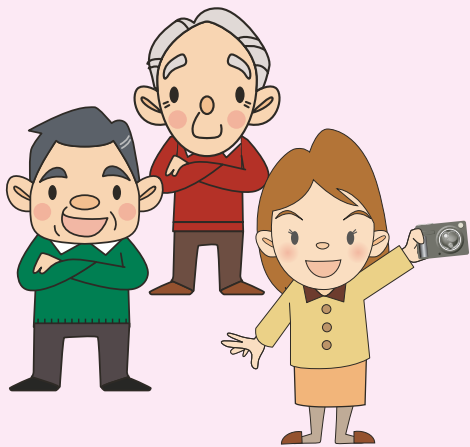
う。最近こねえな表記をよう見る
ようになったのう。

C・・・これは多目的トイレです。男
性でも女性でも入ることができま
すよ。もちろん身体に障がいのある
方が優先ですが、妊婦さんや小
さなお子さんをお連れの方、また
赤ちゃんなどのおむつ替えにも使
つてもいいんですよ。

B・・・いろんなことに使えるんじゃ



共同参画白書」のデータによれば、
平成24年における全国の共働きの
世帯は1,054万世帯に上り、これ
は昭和55年の614万世帯に比
べると、400万世帯以上も増え
ています。共働きの夫婦が増えた
ことで、家事を分担する家庭が増
えているのかもしれない。



なあ。女性用トイレじゃのうて、多目的トイレでおむつを取り替えてもええんじやのう。

C…おむつの取り換えにしても、女性の役割という訳でもありませんしね。最近では、男性用トイレにも子どもと一緒に入れるようになっているところもありますよ。

社会的な環境整備

共働きの夫婦も増え、お互いが家事や育児に協力しながら行うことが増えてきました。

社会においても、多目的トイレなど、男女共同参画を応援してくれる設備も多く見かけるようになったのではないのでしょうか。



A…それにしても色んな写真があったのう。



C…そうですね。でも、今回の写真は男女共同参画のほんの一部分じゃないですかね。



B…探しゃあもつと出てきそうじゃなあ。



C…今回見た写真も、「特別な一枚」というよりも、私たちが普段意識しないだけで、今ではありふれたものも多かったかもしれない。



B…たしかに、わしも毎回ゴミ出しに行くのが当たり前ええになつとるけえなあ。

C…とてもいい習慣じゃないですか。そういった「当たり前」のことがどんどん増えていけば、男女があらゆる分野で共に協力しあうような素敵な社会になるのかもしれないね。

男女参画会議編集後記

今回のりぼんは身近な男女参画を題材にして編集を行ってみた。女性の社会進出が一般的になりつつも、まだまだ充分でない側面があるのも事実。

そんな中、東京オリンピック招致のプレゼンターを努めた女性キャスターの言葉には重みがあり、心に訴えるものがあつた。僕、個人としては、そんな女子力にあやかり紙面の編集、構成を行つてはと安直に思つてしまふほどだつた。

僕は、元来、出不精であるが、仕事柄あちこち出かけることも少なくはない。先日、出張の帰りに少し時間が出来たので勇気を出して京都に途中下車しプチ一人旅としゃれ込むことにした。旅といつてもガイドブックも持たずなんとも気合の入らないことである。とはいえ、最終目的地は新見市とゆかりのある東寺と決めてはいたのだが。

あれこれ、考えていても始まらない。路線バスに乗り込み、めぼしい所を尋ねてみることにした。さすがに名所、旧跡の多い土地柄だけのことはある。平日にもかかわらず行く先々で観光を楽しんでいる人に出会う。修学旅行生であろうか地図を片手にした制服のグループも見受けられる。その中のリーダーと思しき一人に道

を尋ねられた。かもし出す雰囲気はなんなりとした京都の公家の末裔にでもみられたのか、相手に誤解を与えてしまう自分の育ちの良さにつくづく腹が立つ。岡山県から来ていることを告げると、ウイークデイの昼間に中年リーマンがぶらぶらしているのが不思議だつたのか、声をかけた手前気を使つてくれたのか、岡山の名産や名所を聞かれた。最近の中学生は物怖じしないかと感心してみる。

とはいえ、帰りの時間も気になりはじめた。お目当ての東寺に行かなくては、国宝の五重塔がだんだん大きくなるにつれ期待感が高まる。やはり「たまがき書状」を見なくてはと、張り切つて門をくぐつた。が、おめあてのものは特別展示の時しか見ることができないとのこと。まったくのりサーチ不足もいところである。少し、残念に思つたが、これも旅の思い出と気持ちを押さえて、帰りのバスに揺られた。降りる時、「おおきに」と、元気なかわいい声があった。あつ、運転手さん女の人だ。そういえば道を聞かれた修学旅行生も女の子だったな、あれ、最近では女性のほうが元氣いの？これも男女参画！などと思つてみたりした。こんな自分に少し笑えてくれた。初冬の京の旅は心を暖かくしてくれた。